

## 国際会議に参加して感じたこと

生命体工学研究科 福留 麻理恵



### はじめに

平成24年9月10日～12日にフランス西部の都市ラヴァルで開催された9th International Conference on Disability, Virtual Reality and Associated Technologies (ICDVRAT 2012)に参加し、研究発表を行いました。この学会には25カ国の国から120人の研究者が参加する中規模の国際会議でした。

ICDVRATでは身体障がい者のための支援技術について最新の研究報告や討議がなされます。ラヴァルはバーチャルリアリティ（VR）の開発を推進している都市であり、欧

州最大のバーチャルリアリティコンベンション「ラヴァル・ヴァーチャル」をはじめとして様々な学会が開かれており、今回もVRを主として熱い議論が交わされました。

私は認知運動発達支援トレーニングの視点から、脳性麻痺児童のためのリハビリテーション支援システムの研究開発を行っています。特に運動制御が困難な患者に対し、身体が元々持っていたリズムを呼び起こすことを狙いとして、ボタン押し課題と外部からあるテンポの音を与える組み合わせを提案しました。脳に損傷がある場合でも、適切なリズムを与えることで、認知運動の協調が進められると考えるからです。

### 国際会議を通して

私は2日目のポスターセッションで発表を行いました。ポスター発表の前には、Short Presentationと呼ばれる1分間の壇上での研究紹介が

あります。これまでにこれほど大勢の人の前で、英語で説明する機会はなかったため、とても緊張して思うようには話せませんでした。でも、自信をもって発表するように心がけましたので、充実感のある大事な経験になりました。私のポスターを指して聞きに来て下さった方も少なくありませんでした。拙い英語でしたが熱心に聞いてコメントを下さり、よい議論が交わすことができました。ポスター発表中は、開発した機器のデモンストレーションが併設されており、私もいくつか実際に体験しました。私はMicrosoft社のKinectを用いたデモを体験しましたが、自分の動きが反映されてモニタ上に映し出されるプレイヤーが思うように動かず苦労したので、そういう違和感を感じさせないような課題設定が重要と感じました。

学会中は研究者同士が交流できるように懇親会があり、様々な国の人と話ができ、それぞれの出身国の話などで盛り上がることができました。私が日本出身という点、日本のアニメや漫画の話になり、共通の話題で話ができて感動しました。

### おわりに

今回初めて国際会議に参加し、実感したのは、自分自身の英語力の未熟さです。世界中の研究者の方々とより具体的な議論を交わすためには、英語は非常に重要だと実感しました。伝えたいことがうまく表現できず何度も悔しい思いをしました。この思いを忘れずに英語力向上に励んでいきたいと思えます。

最後に、学会参加にあたり、貴重な奨学金を支援してくださった明専会に深く感謝いたします。



学会会場の様子